

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

診療科目：耳鼻咽喉科、頭頸部外科

診療科担当研修責任者名：堀井 新（耳鼻咽喉科教授）
診療科連絡先担当者名：森田 由香（耳鼻咽喉科総括医長）

連絡先：entsouka@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：1人。17年度：1人。18年度：0人。19年度：1人。20年度：3人。21年度：6人。22年度：4人。
23年度：5人。24年度：7人。25年度：1人。26年度：4人。27年度：3人。28年度：5人。29年度：10人。
30年度：4人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：5人以内

◇◇◇ 学会認定専門医数◇◇◇

日本耳鼻咽喉科学会専門医16人、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医4人、日本癌治療学会認定医4人、内分泌外科専門医1人

◇◇◇ 学会認定指導医数◇◇◇

日本耳鼻咽喉科学会専門研修指導医7人、日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門指導医1人

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

日本耳鼻咽喉科学会認定施設、日本頭頸部外科学会認定専門医研修施設

診療科の概説・特徴

診療科研修の特徴等

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の全ての分野を網羅した、良質で安全な医療の提供をモットーとしている。側頭骨領域の外科的治療、人工内耳医療、頭頸部癌の集学的治療、内視鏡下副鼻腔手術など高度な医療を実践しており、受診患者は新潟県内にとどまらない。特に側頭骨領域の手術数が多い。同時に大学病院でありながら、周辺地域の耳鼻咽喉科救急医療をはじめとした一次、二次医療に対するニーズにも応えており、扱う症例は非常に多岐に渡っている。

病棟では主治医とともに患者を担当し、病棟業務、手術に携わる。入院から治療、退院にいたる一連の流れの中で、診察法、検査手技、処置法、手術手技の基本が自然に習得される。担当する患者については耳鼻咽喉科疾患を偏りなく経験できるよう配慮されている。

外来では指導医とともに神経耳科学的検査、内視鏡検査、外来治療、手術前後の管理などを習得する。

また、毎週の症例検討会では、全入院症例の検討を全員で行っている。各診療班による検討会も盛んに行われており、これらの検討会に参加することにより診断、治療に関する最新の知識を偏りなく習得できる。また病棟、外来には最新の内視鏡や顕微鏡モニターシステム、医局検討会室にはAVプレゼンテーションシステムが完備されている。これらにより從来わかりにくくしてきていた耳鼻咽喉科局所所見を常に指導医と共有しながら研修を進めることができるものである。

産科婦人科

診療科目：産科婦人科

診療科担当研修責任者名：榎本 隆之（産科婦人科教授）
診療科連絡先担当者名：安達 聰介（産科婦人科総括医長）

連絡先：sadachi@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：24人。17年度：20人。18年度：20人。19年度：17人。20年度：18人。21年度：18人。22年度：28人。
23年度：3人。24年度：4人。25年度：2人。26年度：0人。27年度：0人。28年度：4人。29年度：8人。
30年度：6人。

受入期間：1.5ヶ月以上

同時受け入れ可能数：5人以内

◇◇◇ 学会認定専門医数◇◇◇

日本産科婦人科学会専門医30人、日本臨床細胞学会細胞診専門医3人、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医5人、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医6人、日本生殖医学会生殖医療専門医3人、マンモグラフィ検診委員会マンモグラフィ読影認定医1人、日本内視鏡外科学会技術認定医3人、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医4人、日本周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）5人、日本女性医学学会専門医1人

◇◇◇ 学会認定指導医数◇◇◇

日本生殖医学会生殖医療指導医2人、日本周産期新生児医学会指導医2人、日本産科婦人科学会指導医11人

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

日本産科婦人科学会、日本周産期新生児医学会、日本婦人科腫瘍学会、日本内視鏡外科学会

診療科の概説・特徴

診療科研修の特徴等

新潟医科大学創設からの伝統のもと、婦人科良性・悪性腫瘍の治療、北陸有数の規模を誇る総合周産期母子医療センターにおけるハイリスク妊婦における妊娠・分娩管理および新生児管理、加えて不妊症、不育症、更年期などの専門領域を含んだ広い分野における研修が可能である。近年は、婦人科悪性腫瘍・子宮筋腫に対する腹腔鏡下手術、精巣内精子を用いた顕微授精、不育免疫療法母体血による胎児染色体検査（NIPT）など多岐にわたる先進的な診療を施行している。

主治医グループの一員として、積極的に診療に参加することを理念とする。
3週間ずつ産科と婦人科を研修し、以下の内容を到達目標としている。

・産科：経産分娩の立ち会いを8例、帝王切開術の助手を3例行う。

産科外来で胎児超音波を行う。

妊娠高血圧症例、切迫早産症例、多胎妊娠症例などを受け持つ。

・婦人科：婦人科手術の助手を3例行う。

婦人科外来で内診、経産超音波を行う。

子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌などの悪性疾患症例、および子宮筋腫・卵巣腫瘍などの良性疾患症例を受け持つ。

・不妊症：体外受精の採卵術を行つ。

不妊内分泌外来で不妊症検査を行う。

また、火曜朝の術前検討会、木曜朝の産科婦人科検討会、月に2回行われている病理医師との症例カンファレンスに参加し、2人の指導医とともに週に1回当直を行う。